

日本鐵鋼協會記事

◎理事會

大正八年二月三日(月曜日)午後五時より本會事務所にて理事會を開く、當日の會議事項は左の如し。

一、本會備附の圖書雜誌を編輯委員か借出し自由の件(可決)

一、第四回通常總會に關する件

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎 香村小録

◎編輯會

大正八年二月三日(月曜日)午後五時より編輯會を開き會誌第五年第二號の原稿を選定せり、當日出席者は左の諸氏なり。

堀尙 靖 河合 匡 櫻井 爭三 尾藤嘉勢士

◎特別委員會

大正八年二月三日(月曜日)午後六時より本會事務所にて、特別委員會を開く、當日の會議事項左の如し。

一、今泉嘉一郎氏草案「製鐵事業並時局救済に關する建議書」一件(可決)

一、欠席委員に右草案を配布して、賛否及意見の回答を求むること。

一、二月八日評議委員會を開會して右建議書を協議すること。

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎 香村小録 加茂正雄

◎評議委員會

大正八年二月八日(土曜日)午後五時半より本會事務所にて、評議委員會を開く、當日の會議事項左の如し。

一、評議委員半数改選件(會長に一任す)

一、第四回通常總會に關する件

期日、三月二十九日(土曜日)

講演件

一、理事改選に關する件(尙一ヶ年延期とす)

一、製鐵事業方針並時局救済に關する建議書件

一、右建議書の訂正を香村小録氏に依託し、本會々長今泉嘉一郎氏之を農商務大臣に呈出すること。

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎 香村小録 種子田右八郎 桂 辨三
加茂正雄 日向 庄作 野呂 景義

(片岡 安 原田 鎮治 門野重九郎 寺野 精一
山田 直矢 諸氏は書面を以て出席を代表せり)

◎製鐵事業方針並時局救済に關する建議書

我國が製鐵事業の必要を自覺せしは、既に明治の初年に屬し、釜石、中小坂及廣島地方の鐵山開發に其端緒を拓きたるも、事業初期の困難と、外品の壓迫とに依り、遂に其功を奏せず、其間に於て國勢の異常なる進歩は、益々鐵材の需要を増加し、兵器軍艦は勿論、一般平和施設に對し、盡く外國の鐵材を使用し、之か爲め年々外國に支拂ひたる金額は、莫大なるものあり、生絲、茶の如き主要輸出品の金額を合するも、尙輸入鐵材の價格に及はず、年々の輸入對照は、毎に輸入超過を繼續するの外なく、我國の軍備及經濟の兩面に於て、全く其基礎を危くするに至れり、此に於て明治二十九年八幡製鐵所の創立となり、當初十餘年に亘り、非常なる苦辛を以て、技術及經營の功を積み僅に鐵材自給の基を開き、其の經驗に鑑み、其の技術を模習して、漸く民間の企業を見るに至りたるも、滔々たる外鐵侵來の大勢は未だ其趣を改めず、大正二年に至るも我國の銑鐵製造高合計二十四萬噸鋼材二十五噸に過ぎず、而して尙輸入外鐵は、銑鐵二十七萬噸、鋼材五十四萬噸を算せり。

然るに大正三年八月に至り、突如として歐洲の大戦となり、我國は殆んど全く外國鐵材の輸入を杜絶せられ、各種の工業は鐵材の缺乏に依り、此千載一遇の時機に際會するも之かため充分の活動をなす能はず、自然の結果として鐵價の暴騰を來したりと雖も而も尙之か需用者たる造船、機械其他の工業に對して、相當の利益を與へ之か振興を助く

るを得たるは前述の如く不充分ながらも製鐵事業の基礎一部成りたるものあるか爲なり、而して鐵鋼自給は國防上經濟上絶對必要なりと云ふ輿論の盛なりしと鐵價の益々騰貴せる爲め事業の所設擴張漸く起り加之大正六年七月に於て公布せられたる、製鐵業獎勵法は、斯業の負擔を軽減するところありたるを以て、更に事業の勃興を促進せり。

此の如き經過に依て大正七年度に於ては、銑鐵約六十萬噸鋼材約六十六萬噸の製造を見るに至り、尙此上に晩近に於て創立したる各製鐵所の完成したる曉を想像して、其能力を加算する時は銑鐵のみの製造か無慮百二十萬噸に達す可し、尙又比較的容易に擴張し得べき程度の擴張能力をも加算するに於ては其合計百六十萬噸に達せんとす、鋼材に關しても亦、其振興の趨勢銑鐵の如きものあり、其既に設立を了したる工場のみの製造能力に以てするも、略々目下の我國の需用を充たすに足るへし。

斯くして我國の製鐵事業か、今日の盛況を見るに至りたる迄に、費したる數十年の年月は決して短かしと云ふを得ざるも過去二十年間に成したる我國斯業の進歩は、歐米に於て先進國か曾て數世紀を費したるものにして我か過去四十年間の進歩は歐米に於て數十年を要したるものなり、其此の如き異常なる進歩をなしたる所以のものは最近に於ては主として時局の趨勢に基くと雖も亦我か國民の愚なからざる努力と犠牲とに依りて得られたる結果と謂はざるへから

す。

然るに今や突如として戦局の終了となり、從來全然我國と事情を異にしたる外國市場の過剩品は、俄然として、恐るべき投賣的価格を以て、我國に侵入せんとするの狀況となり、一般の鐵市場に於て恐慌状態を現出し、殆んど全く商取引を中絶するに至り、市場、製造界共に全く不安に支配せられ、只手を拱して前途を悲觀するのみ、之か爲め戦局中勃興せるものは勿論戦前既に相當の發達をなしたるものと雖も大打撃を蒙り、我國の製鐵事業は殆んど衰滅せんとするの窮狀を呈するに至れり。

以上の如き目下の情況に對し如何にして之を救濟すべきや、又如何にして將來の發達を遂げしむ可きやを講究するは、正に今日の急務なりと信す。

之に對し本會は特に委員を撰定し、審議の結果、左の決議をなすに至れり幸に政府當局の參照する所となり、速かに之か對策の實現せられんことを切實に希望す。

官民合同の製鐵調査委員會を急速に設置し
製鐵業救済に關する應急の施設を爲し並に
將來の發展に對して適當なる方策を樹立す
ること

該委員會に於ては左の諸項に就き審議決定せられんことを望む。

(イ)外國よりのダンピングを防遏する爲め對ダンピン

グ法を制定すること。

近來外國より輸入せられんとする鐵鋼は明かにダンピングの性質を有し尙今後迅速にダンピングの來るべき形勢歴然たるものあり。蓋し戦時中歐米に於て莫大に準備せられたる軍需鐵鋼の變形加工したるもの或は不用品として蓄積したるものは必ず格別の廉價を以て盛に輸出せらるべきに付、之等に對して適當なる對ダンピング法を適用せざるべからず。

(ロ)政府に於て短期間鐵鋼の輸入を管理する如き臨機の處置を施し以て現下の混沌状態を鎮靜すること。

現時我邦製鐵業の大難境に在ることは戦時中平時に數倍する高價を拂つて設備を爲し且つ非常に高價なる原料及材料を準備したる二點を主とし、又財力及信用の有らん限りを盡くして起業擴張を計りたるに基因す、然るに一朝急轉直下の悲運に際會して之を自然に放任し何等救済の途を講せざるは唯其の破滅を期する而已なり、惟ふに戦時投機的の企業は論外とし苟も事業家として戦後の用意を怠りたるにあらざるも時局の情勢は徒らに安全專一を許さず。勇往邁進したる爲め其設計の如きも寧ろ拙速を尙ひ一噸たりとも多量に且つ迅速に生産せんことを努め隨て技術に於ても亦練磨を缺くの恨ありたり、今や大に設備の改善を計り技術の進歩を講すべきの秋に當りて此の悲況に沈淪して存立を危まるゝに於ては實に我邦製鐵業の危機と云はざるべからず。

らす、加之今日の状態は鐵を使用する各方面に涉りて不安を誘起し、諸工業の進行を阻止し殊に經濟界の大恐を來さんとする傾向恐るべきものあるを以て此處短期間何等か適當の方法に依りて此の不安を鎮制し其間に於て善後の策を講し改良整理を行ひ以て恒久的基礎を造らしむること最も緊要なりとす、之に對しては對ダンピング法と共に最新英國が實行したる如き輸入管理の如きも亦一方法ならんと信す。

(ハ)製鐵業の聯絡合同を計ること。

今日我邦製鐵業の如く小資本分立の状態に在りては其經營不利なるもの多く到底外國の優勢なる勁敵に對抗すること能はざるへし、今に於て宜しく大資本合同を計り、依て以て設備を改善し工程を高め原料、製品、及販賣の重複を避け結局廉價の生産を爲すことを努めざるへからず、之を實行するには官民製鐵所の重要なものを合同して一團と爲すか、若くは組織的聯絡を爲さしむるか、充分調査考究して適宜の方策を定め永遠斯業の基礎を鞏固ならしむること肝要なりとす。

(ニ)保護關稅を實行すること。

鐵鋼に關する列國の關稅率を見るに多くは我れに倍加若くは數倍の重稅を課せり、英國の如き年來久しく自由貿易を標榜する國に於て尙且つ戰後保護關稅を實行せんと努むるもの、如し、凡そ一國の産業にして其發達を期せんとす

るに於て稅關政策の有効なること古來歐米の歴史が教ゆる實蹟に徴して一點の疑を存せず、況や戰後各國經濟戰の激烈なるを豫想すべきに於てをや、我邦現行關稅は數年前殆んど需用鐵鋼の大部分を輸入に仰きたる時代に於て規定せられたるものにして、今日の狀勢に適せざること明白なるを以て宜しく之を改定し相當に保護の實を擧ぐるの必要を認むるものなり。

之を要するに生産自給の論は一般を通して或は不可なる所あらんと雖も、百般工業の基本にして文明の元素たる製鐵業殊に軍事上食糧と相並て絶對的必要なる鐵の生産に於て最小限度にても之か自給を爲さざれば國家の存立を危くすると云ふ前提にして若し誤りなくんは本問題は決して等閑に附すへからざるものと信す、故に吾等は國家的見地より今日に於て我製鐵業の危機を救ひ又斯業永遠の維持發展を策する爲め速に適當なる調査機關の設立せられんことを熱望し、茲に本建議を呈出するもの也。

大正八年二月十二日

日本鐵鋼協會々長 工學博士 今泉嘉一郎

農商務大臣山本達雄殿

又二月十八日同上建議書を軍需局長原象一郎殿にも呈出せり。

◎入退會社者

前號報告後入退會を承諾せられたる會員左の如し。

退會者 (住所及職業)

東京市本郷區駒込林町一
 神戶市笠松通十丁目イノ一
 東京市麴町區内幸町二ノ三
 同 准會員 山本十起雄
 同 同 山崎茂一
 同 同 ダイヤモンド社

入會者 (住所及職業)

北海道室蘭區輪西製鐵株式會社 正會員 横田文吉
 北海道夕張郡鹿谷 同 小野保吉
 大阪砲兵工廠 同 河田正太
 支那湖北省漢陽兵工廠 同 劉述錫
 大阪府西成郡今宮町木津九二一 同 株式アサヒ鑄鋼所
 大阪府泉南郡岸和田町堺一九一九 同 榊花門治郎
 青島北通東和油房 同 後藤長藏
 東京市麻布區筭町二八 同 一色虎兒
 東京市京橋區松屋町一ノ五山中商會方 同 准會員 山下成一
 北海道室蘭區輪西製鐵會社 同 同 牧野太吉
 同 同 小野保太
 同 同 後藤潤五
 同 同 三島正藏
 同 同 三島重藏
 同 同 守屋重藏
 同 同 角野尙德
 同 同 田川淺次郎
 同 同 藤堂宗人
 同 同 增田泰人
 同 同 升田德太郎
 同 同 富永順太郎
 同 同 林 猷之介
 同 同 村瀨文雄
 同 同 梶 喜一
 同 同 大西賢太郎
 同 同 景山 齊
 同 同 井上元吉
 同 同 市川 造
 同 同 白石岩次

轉居 (新住所左の如し)

東京市芝區車町八東京藤田家勤務
 靜岡縣田方郡三島町字四ノ乘三島製鍊所
 福岡縣八幡市高見町八丁目官舎
 大阪府豐能郡岡町幸通一丁目第百三十八號
 滿洲鞍山製鐵所工務科
 橫濱市瀧頭町九八
 府下集鴨町宮仲二一五
 福岡縣小倉市外金田
 神戶市兵庫上澤通八丁目一〇八番邸
 橫濱市磯子町若尾山九一(渡米中)
 千葉縣長生郡一松村甲一九一木島方
 大阪府北區安治川上通一丁目住友伸鋼所
 東京市外代々幡町大字幡ヶ谷一〇
 鳥根縣松江市母衣町六十七番地
 東京市外千駄ヶ谷藤田二八
 長崎市外中町一四
 宮崎縣延岡本小路
 支那湖南省長沙靈官渡一九號
 大阪府北區東梅田町二九一
 東京府下荏原郡南品川宿九四
 東京市外巢鴨町宮下一六六二
 大阪府西成郡今宮町字木津九二一アサヒ鑄鋼所
 神戶市山本通五丁目二一
 長崎市三菱造船所
 滿洲鞍山製鐵川工務課

山本惣治
 黒木逸作
 兒玉晋匡
 神保敏男
 高橋虎雄
 金尾忠義
 字都宮寛一
 金澤鶴雄
 中島保雄
 山田(舊姓金井)泰作
 村井 勝
 宮川 一
 太田 太
 堀川 熊男
 宮口竹雄
 篠原哲十郎
 直井武好
 靈成 章
 瀨良隆藏
 長谷川仁助
 大矢喜兵
 土井十三
 仲居源治
 緒方直世
 直村盛之助

死亡 正會員諫早基三氏は大正八年一月死亡せられ
 たり誠に哀悼の至りなり謹て弔す